

2014年3月期 決算説明会Q&A

【2014年3月期実績】

Q: 第4四半期の計測事業の受注について、製品・地域別の動向を教えてください

A: 引続きLTE-AdvancedやTD-LTE関連のモバイル開発用需要が牽引した。北米のチップセットベンダーを中心にグローバルな研究開発拠点で計測需要が出ている。また中国などアジアの開発市場も拡大してきている。

Q: 第4四半期の粗利益率が前年同期比で低下している要因は何か

A: 連結ベースでは、主に産業機械事業と情報通信事業の売上が前年同期比で増加したことによる。

【2015年3月期見通し】

Q: 計測事業の営業利益率が、中期経営計画の20%を下回る18%の見通しになった理由は何か。サポート強化に伴うコストを更に積み増す計画なのか

A: 日本のモバイル市場の縮減と、海外でのビジネス拡大に向けたサポート体制増強により、中期経営計画策定時の想定からコスト構造が大きく変化している。これまでに強化したサポート体制を活かしてビジネス拡大を目指すとともに、中長期のビジネス拡大に必要な体制強化は継続する。

Q: 日本市場の縮小は底入れしたのか

A: 顧客や業界動向により事業環境が変化するリスクはあるが、概ね底を打ったと認識している。一方で、2012年度以前の売上規模に回復する想定はしていない。通信オペレータのサービス品質向上競争を背景とした需要や、通信モジュール関連でのビジネス獲得に注力する。

Q: 中国でのTD-LTE関連ビジネスの見通しは

A: TD-LTEはグローバルスタンダードの方式であり、ビジネスもグローバルなプレイヤーがターゲットになる。製造需要の本格的な立ち上がりは、2014年度下期以降を想定している。